

第 35 回北九州市環境審議会

1. 日 時 平成 25 年 11 月 21 日（木） 15:00～17:00

2. 会 場 ホテルクラウンパレス小倉 2 階 香梅の間

3. 出席者（敬称略）

会 長 浅野直人

副 会 長 大久保無我

委 員 泉優佳理、岡本義之、北野久美、自見榮祐、土井智子、西道弘、西本祥子、
樋口壯太郎、福丸清生、細川文枝、松井克演、村上直樹（50 音順）

事 務 局 松岡環境局長、諫山循環社会推進担当理事、吉田環境政策部長、加茂野環境未
来都市推進室長、柴田環境都市調整担当部長、櫃本環境国際戦略室長、青柳環
境監視部長、佐藤循環社会推進部長、山下環境科学研究所長、武田総務課長、
渡部環境広報担当課長、東田環境学習課長、作花環境保全課長、井上産業廃棄
物対策室長、二宮監視指導課長、敷田循環社会推進課長、檜木野業務課長、梶
原環境未来都市次長、柴田スマートコミュニティ担当課長、平石エネルギー戦
略担当課長、山本環境産業担当課長、久保環境国際戦略課長

4. 議 題

【報告事項】

- ①環境基本計画進捗評価報告（H24 実績）について
- ②環境モデル都市次期行動計画の策定について
- ③北九州市地域エネルギー政策について
- ④北九州 PCB 処理計画の見直しに関する国からの検討要請について
- ⑤北九州エコマンズの実施報告について
- ⑥北九州エコマンズ期間中に開催した国際会議について
- ⑦星空の街・あおぞらの街全国大会開催報告について
- ⑧北九州市環境首都検定の実施について

5. 議事要旨

（1）会長挨拶及び環境に関する動向

浅野会長より挨拶及び最近の国の環境施策状況について話があった。

（2）報告事項

上記 8 件について、事務局より報告があった後、質疑応答が行われた。

6. 議事録（要旨）

（1）環境局長挨拶

ただ今、ご紹介いただきました環境局長の松岡でございます。第 35 回環境審議会の開催にあたり一言ご挨拶いたします。委員の皆様には、日頃から本市の環境行政にご協力いただきまして深く感謝申し上げます。

北九州市は今年で市制 50 周年を迎えました。お手元に OECD レポート日本語版をお配りしておりますが、このレポート発行を記念して 12 月 18 日に OECD 主催の国際会議を開催いたしまし

た。この前後 4 日間で 7 つの国際会議を開催しましたが、その中で一貫して褒められていることは「市民環境力」です。これまでの評価、また、今後の課題においても、「市民環境力」をいかに発揮していくのか、ということがレポートに書かれています。

また、10 月をエコマンスと銘打って、市民参加のもとエコライフステージを始めとした様々な環境イベントを実施しました。エコマンスを通じて特に感じたことは、「市民環境力」を言葉として理解していたつもりでしたが、今回市民の皆さんに見せていただいた平素の環境力、努力、汗、こういったものが今の北九州市の環境を形づくっていること、そして、今後も市民の皆さんと一緒に取り組んでいかなければ、グリーンフロンティアを達成できないと改めて実感しました。同時に大気や水質、不法投棄などの身近な問題についても着実に推進していきます。特に、最近話題になっています PM2.5 の問題については、真正面から取り組んでいきたいと考えています。

本日は、次期環境モデル都市行動計画の策定や PCB 処理計画の見直しに関する国からの要請などを報告させていただきます。お忙しい中ではございますが、委員の皆様にはフレッシュなご意見をお願いいたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願い致します。

(2) 報告事項

【会 長】

それでは、本日は報告事項を 8 件頂きますが、まず、環境基本計画の進捗状況の評価について事務局から報告いただきます。

環境基本計画の進捗状況の評価報告について、武田総務課長より説明

【会 長】

はい、ありがとうございます。それでは、ただいまの環境基本計画の進捗状況の報告について、ご意見ご質問ございましたらお願いします。

【委 員】

先ほど松岡局長から「市民環境力」が今後の様々な取組みに重要だという話がありましたが、資料 3 ページの評価平均点の総合評価では、市民環境力が最も低くなっています。この点について、どのように考えているのかお尋ねしたい。

【事務局】

これまで言葉の中で「市民環境力」と言いながら、市民の皆さんの力や汗を十分に把握していたのかという点につきましては、今回のエコマンスを振り返ってみても反省すべき点がございました。どのような思いで多様な活動に取り組まれているのかということに対して、パートナーシップの中で結び付けを強めていかなければならないということがひとつです。それから 2 点目として、大事なものは情報発信の仕方です。行政の目線では伝えていると思っけていても、市民の実感として伝わっていないのではないかとご指摘もいただいています。評価の中にこのような姿勢に対する部分が表れているものと考えています。その点は、先程のご挨拶で申しあげた点をしっかりと噛み締めながら、今後、地に足をつけ、市民とともに歩む政策を展開していきたいと考えています。

【会 長】

ありがとうございました。主観的な面と客観的な仕事の量から評価するわけですが、本当に難しいと思います。行政の側からの評価と市民の側からの評価の一致度の問題なのかもしれません。この次は、市民の側から評価するとどうなるかについても検討されると良いと思います。エコライフステージなどのイベントでの盛り上がりを定量的に評価すれば別の評価となるかもしれません。また、草の根で地域に密着した活動を毎年見ていくと大きく増えているわけですから、そういう点をどのように評価の中に織り込むかという見せ方、評価の仕方の問題かもしれません。その辺りをもう一度考えることも大事じゃないかと思います。

【委 員】

13 ページの進捗指標の中の使用済み小型電子機器等回収量と使用済みリチウムイオン電池の回収量については、目標値に比べて24年度の実績がかなり低くなっています。今年、小型家電リサイクル法が制定されましたが、それを踏まえて、目標を達成するために考えられていることがあれば教えてください。

【事務局】

使用済み小型電子機器等の回収量の現状値4トンにつきましては、平成20年度からソニーと共同実施している実証実験における年間回収量です。今年の8月からは市の事業として小型電子機器の回収を実施しており、従来のボックスによる回収に加えて粗大ゴミからの回収も開始し、年間約70トンを見込んでいます。認定事業者である日本磁力選鉱が中心となって事業を実施しますが、ご存知のとおり、日本磁力選鉱は海外から電子機器、廃電子基盤等の輸入も行っており、将来的にはそのような数値を想定してします。

次に、使用済みリチウムイオン電池につきましては、電気自動車やハイブリット自動車に使われている車載用のリチウムイオン電池を主なターゲットとしています。ここ最近出始めたものであり、リチウムイオン電池は大体5年保証ということですので、5年後ぐらいから大量に廃棄やリサイクルが増えるとの考えからこのような目標値を掲げています。

【委 員】

小型家電リサイクル法の取り組みについては、どのような状況ですか。

【事務局】

今年の8月1日から、市の事業として小型家電電子機器のリサイクルに取り組んでいるところでございます。

【委 員】

質問ではありませんが、全体の感想を述べさせていただきます。2 ページの環境首都予算について、ここ数年市全体で一律何%カットが続くなど非常に厳しい財政状況が続いている中で、環境関連予算の割合が伸びています。全体のバランス感覚から見て問題が起こらないのかという印象を少し受けました。

【会 長】

これはコメントとして受け承っておきましょう。いわゆる伝統的な意味での環境予算ばかりではなく、福祉関係等も含まれているのだと思います。環境首都予算と環境予算は違うと思ひ

ますので、資料を整理して、委員に提供すれば良いと思います。

それでは、次に環境モデル都市行動計画の策定について報告をお願いします。

環境モデル都市次期行動計画の策定について、梶原環境未来都市推進室次長より説明

【会 長】

環境モデル都市行動計画の改定について、新たな計画の考え方などを説明いただきました。何かご質問・ご意見がございませんか。

【委 員】

27 ページの市民太陽光発電所建設の売電収入を活用した市民還元について、25 年度は市制 50 周年事業として幼・小・中・高校等にシンボルツリーの「いちいがし」を植樹するとありますが、26 年以降の売電収入の活用方法に関する具体的な方策があれば教えてください。

次に、49 ページの環境未来都市「私たちの実践」の中で、対象が児童、生徒、教職員、保護者、市民となっておりますが、この児童の中に幼稚園児・保育園児も含まれると解釈してよろしいでしょうか。

最後に、57 ページの ESD の推進について、評価の中でも認知度が低いとの話がありましたが、具体的にどのように推進していくのか、また、見せ方を含めてどのように周知していくのかお尋ねします。

【事務局】

市民太陽光発電における売電収入の活用方法ですが、担当局から次年度以降は未定と聞いております。今後、決定すれば公になっていくものと思います。

【事務局】

49 ページの児童については、おっしゃる通り園児等も含むものです。

次に、ESD に関する具体的な取組みにつきましては、認知度がまだ 4. 5%となっておりますが、今年の 3 月にまなびと ESD ステーションがオープンしたことなどもあり、徐々に認知度が上がっているものと思っています。また、10 月にアジア太平洋地域 RCE 会議が本市で開催され、シンポジウムにも多くの市民の参加がありました。そういったことから普及が進んでいると思っています。来年度には、ESD の 10 年の最終会合が愛知県と岡山市で開かれます。この会合開催にあたって、北九州 ESD 協議会を中心に本市の ESD の取組みを国内外に発信していきたいと考えています。

【会 長】

ESD、伝統的な環境教育、その他の取組みがあるなど、関連する分野が多すぎるというのが現状です。中にはあまり変わらない取組みであったり、あるいは上位概念と下位の概念がごちゃごちゃになって同列に扱われているなどの混乱が見られます。もう少し、すっきりする必要があるのではないかと思います。担当者が概念を整理して頭の中で体系を作っていかなければ、漠然と並列になってしまい、連携も上手くいかなくなってしまうかもしれません。

環境が ESD に取り組むと、他の局が逃げてしまうかもしれませんが、受け皿となって、一所懸命頑張っている学校や保育所の先生方とも話し合いながら、重点的に伸ばしていく点は何処か、北九州らしい ESD は何か、について考えていけば良いと思います。北九州市は高齢化が一

番進んでおり、まさに持続可能な象徴の人が多くいる都市として、そのようなことをうまく活かしていく ESD の取組みができないはずはないと思います。委員いかがですか。

【委員】

会長に上手くまとめていただき、ありがとうございます。私もそのとおりだと思います。持続可能な教育ですので各分野が入っていますが、どうしても環境に特化しがちです。環境だけかといえば決してそうではなく、やはり人づくりが重点課題だと思いますので、その点に取り組んでいただいて、認知度をもっと高めてもらえたらと思っています。

【会長】

はい、他にございませんか。

【委員】

ESD に関しては、大学と連携したまなびと ESD ステーションや学校におけるユネスコスクール認定など、学校関係との連携は進んでいますが、市内企業との連携が未だに弱いのではないかとと思っています。例えば、ユネスコの指定校と地域で活動している ESD のメンバーとの交流など、ESD を色んな形で結び付けて、企業にも入っていただく工夫が必要ではないかと思います。ご意見をお聞かせいただきたい。

【会長】

後でまとめて答えていただきましょう。次ぎどうぞ。

【委員】

資料 1（評価報告書）の 23 ページ、古紙回収について、「スーパー等での店頭回収の増加等により回収量は微減となっている」とあります。しかし、市内のスーパーでも古紙リサイクルに取り組まれていて、出しやすいので私はスーパーに持って行っています。市民の目線から言えば、結局トータルで減少すれば良いのではないかと思います。事業毎に分けるのではなく、スタート地点を市民に変えていただくと数値目標の設定が変わるのではないかと思います。

同様に資料 2 の 10 ページ、フォローアップの方法の中で、「公共交通利用について公共交通乗客の対人口割合」とあります。公共交通は持続可能な社会の実現に向けて環境分野にも大事な部分ですが、それをバスとか電車とかに分けるから難しくなるのだと思います。市民から見ると、電車に乗るのもバスに乗るのも一緒なので、ベクトルの出発点を市民にして頂けると変わっていくのではないかと思います。これから作られる計画の中で、活かしていただけたらありがたいと思いました。

【会長】

ありがとうございます。次の方、どうぞ。

【委員】

資料 2 の 56 ページ、カンパスシール事業についてです。レジ袋を減らすためにカンパスシールをいただくのですが、貼るという行為をなかなかしないため、結局はシールを遠慮しますということでレジ袋を使ってしまいます。男性は特に多いと思います。これが何処に行っても使える共通カードにポイントを貯めるような方法、また、ポイントを円にかえて買い物に使える

よくなればもっと利用しやすくなると思います。

【会 長】

それでは、事務局お答えをお願いします。

【事務局】

ESD の企業への展開につきましては、確かにおっしゃる通りです。今年度に企業の皆さんに対して、協議会副代表から ESD についての取り組みと企業の参加について話す機会もありました。これを機に、広げていきたいと思っています。

【事務局】

古紙の回収につきましては、市民の方にとって出しやすいという状況を考えると、行政による回収だけでなく民間の回収についても評価に入れるべきだと思います。市の事業の評価としてはこのような表現になっておりますが、市民の方の環境活動、民間の回収をあわせた形で評価をした方が良いのかについて検討したいと思います。

次に、カンパスシール事業につきましては、平成 27 年 3 月で一旦終了する予定としております。現在、次の展開を考えており、レジ袋を減らせばポイントをもらえるという仕組みも含めて、楽しく環境活動を行うための励みになる事業に変更したいと考えております。

【会 長】

既存のシステムにうまく乗ることができれば良いかもしれないですね。鉄道会社が発行している IC カードには、系列のスーパーでポイントが付くものもあるので、そのインフラを活用することを考えてみたらどうかと思いますが、なかなか難しいとは思いますが。次の方、どうぞ。

【委 員】

古紙回収の話がでましたが、私は町内会長をやっております、古紙回収の奨励金が年 2 回振り込まれます。この奨励金が町内会の活性化に大いに役立っております。できればもう少し値上げしてもらえれば良いかなと思っておりますが、紙は本当に貴重ですし、日頃出さない人も古紙回収に協力してもらえています。

【委 員】

2 点お伺いします。まず、4 ページの修正部分、「政令指定都市の中ではトップクラスの実績となっている」というところで、文章をよく読めば一人当たりの排出量が少ないということだと理解できますが、何がトップクラスなのか分かりづらいので、もう少し詳しく記述した方が良いと思います。

次に、全体としての温室効果ガスの削減目標が掲げられていますが、2050 年になると北九州市の人口も大分減っていると思います。この人口減少を踏まえた中で排出目標を掲げているのかについての記述が見当たりません。人口減少が影響あるのであれば、記述した方が良いと思います。

【会 長】

ありがとうございました。市民一人当たりトップクラスというのは、1 番成績が良いという意味ですよね。

【事務局】

はい、そうです。

【会 長】

長期目標については、人口減による影響を当然織り込んでいるものと思いますが、人口減という要因よりも、産業部門での削減や都市構造の変化による削減が大きく貢献することを考慮した削減目標だと思います。この理解で良いですか。

【事務局】

そのとおりです。

【会 長】

次に、北九州市地域エネルギー政策について説明いただきます。

北九州市地域エネルギー政策について、平石エネルギー戦略担当課長より説明

【会 長】

何かご意見ございましたらお願いいたします。

【委 員】

細かいことですが、2点教えてください。

まず、高効率火力発電については、どのくらいの高効率をイメージされているのでしょうか。次に、NEDOと電源開発の実証試験のことに触れられましたが、既に稼働中ですので、他の場所との実績比較に関するデータを持たれているかについて教えてください。

【会 長】

はい、それでは今の質問についてお願いします。

【事務局】

効率につきましては、市販されている中で最高効率のものと考えています。中規模火力であれば、微粉炭や流動焼などのタイプがありますが、その中で高効率のものと考えています。

2点目のNEDOの洋上風力につきましては、今のところ、覆った程度で発電できていると見えています。

【会 長】

他にご意見ご質問ございますか？

【委 員】

発電効率と関係あるかもしれませんが、売電価格について、九州電力と比べてどのくらい安くなるのか予想がついているのですか。

【事務局】

九州電力から買っている値段は、電気の使用量によって値段がそれぞれ異なりますが、それよりも低い値段にできないかと検討しているところです。しかし、九州電力は電力源をたくさん持っていて、大量に使うところには値段が安く設定されています。そういう点についての調

査を行っていますが、現在想定している中規模発電では少し難しいのではないかと考えており、どこまで安くできるのかについて検討しているところです。

【会 長】

他にございませんか。

それでは、この件は報告を承るということですので、次に、PCB 処理計画の見直しに関する国からの要請について説明を受けます。

北九州PCB処理計画の見直しに関する国からの検討要請について、井上産業廃棄物対策室長より説明

【会 長】

ご質問・ご意見ございましたらどうぞお願いいたします。

【委 員】

カネミ油症事件では、PCB を食品から摂取して大きな事故が起きました。先ほど説明のあったトランスやコンデンサ等は、北九州の何処の工場にもありましたが問題となったことはありません。市民に意見を聞いてとの説明がありましたが、話のつながり方によっては放射性廃棄物と同じような感覚で市民が捉えてしまう恐れがあるのではないかと懸念しています。そういう性質を持っているものではありません。むしろ、環境で飯が食えるのかという議論がありますが、これは環境で飯が食える例だと思っています。延長して日本国内の処理を行うくらいのスタンスを取ることが環境先進都市の役割の一つではないかと思っています。

【会 長】

他にも意見ございませんか。

【委 員】

平成 35 年までに処理を完了するということが非常に重要な視点ですので、これを達成するために各々の都市が考えていかなければならないことだと思います。全国 5 カ所の中で北九州と北海道が出来て、他の 3 都市は何故計画どおりに出来ていないのでしょうか。この点については、市民の方も関心を持たれると思いますので教えてください。

【会 長】

これは、最初のボタンのかけ間違い大きいです。当時の感覚では、出たものはその地域で処理するという自区内処理が原則だと考えすぎてしまったのです。ところが実際は、北海道に東京のものを、北九州には岡山以西のものを持ってきた。そもそも自区内処理原則を取っているわけではないのに自区内処理原則と言ってしまったわけです。その結果、各処理施設が連携を取ることなく、それぞれの地域で別々の業者が別々の方針で処理を始めたのです。ノウハウもやり方も違うため、得意・不得意が出てしまったのです。また、事業者が同時にスタートしていないこともあって、ある事業所では進んでいるがある事業所では全く進んでいないという状況となっているのです。

2 点目は、やってみたら想像以上に処理に手間がかかったということです。メーカーに聞けば処理できると思ってやってみたら違って、当初の想定以上に手間がかかってしまったのです。以上のような理由です。

他に何かご質問がございますか

【委員】

コンデンサやトランスは、今は製造中止になっているのですか。

(なっています)

現在も使用中のものもあるのですか。

(あります)

先程話がありましたが、北九州市がこれだけの技術持っているのであれば、それで稼ぐ都市になったらどうかと思います。それで食べていける都市になれば良いのではと思います。

【会長】

法律の最初の作り方がまずかったって思っておりまして、「PCB廃棄物」ではなく「PCB処理法」とすれば良かったと思っています。「PCB廃棄物」となると廃棄物になるまで届ける義務がないのです。使用中は廃棄物ではありませんので、どのくらいのを、何処で使っているかという情報を製造元が持っているため、将来的にどの程度使用中のものが出てくるのかがはっきり分かっていません。

【委員】

自分に身近な場所では、今でも PCB を管理している状況があります。まだ、数字に反映していないものもかなりあるのではないかと思いますので、これを把握するための届出制度等が必要ではないかと思います。

【会長】

その通りだと思います。他にございませんか。

それでは、この件については、当審議会として報告を承ったということによろしいですか。

それでは最後になりますが、北九州エコマンズ、星空の街・あおぞらの街全国大会等について、まとめてご報告いただきます。

北九州エコマンズの実施報告について、渡部環境広報担当課長より説明

北九州エコマンズ期間中に開催した国際会議について、久保環境国際戦略担当課長より説明

星空の街・あおぞらの街全国大会開催報告及び環境首都検定の実施について、東田環境学習課長より説明

【会長】

どうもありがとうございました。

まとめて報告いただきましたが、時間があまりありませんのでこれでよろしいでしょうか。

それでは、報告を承ったこととします。

なお、本日配布された北九州の環境を拝見しましたが、非常に洗練された内容だと思います。他都市よりもかなりよく出来ていると思いました。

それでは、副会長に総括のご発言をいただいて本日は終わりたいと思います。

【副会長】

北九州市議会で環境建設委員長を努めており、委員会で同じような報告をいただいております。

すが、議員でない方々の意見、特に子どもを育てる立場など違った角度から様々な意見をいただいたことが印象に残りました。そういった意味で、市の執行部の方々には、より多くの市民の声を拾っていただきながら、市政に活かしていただければと思います。お疲れ様でした。

【会 長】

それでは、最後に事務局、何かございませんか。

【事務局】

お疲れ様でした。本日はお忙しい中ご出席いただき、また貴重な意見をたくさんいただきました。是非、今後の市政の参考にさせていただきたいと思っております。次回の環境審議会につきましては、来年度の5月頃の開催を考えております。詳細につきましては、後日、事務局の方からご案内をさせていただきたいと思っております。

それでは、以上をもちまして、第35回北九州市環境審議会を終了させていただきます。本日は、どうもありがとうございました。